



# 岡山フルートの会会報

2013年5月号 第171号

HP:<http://www.okayama-flute.net/>

E-mail:[okayama-flute@mail.goo.ne.jp](mailto:okayama-flute@mail.goo.ne.jp)

春が来た！と思ったら、もう5月です。ゴールデンウィークも過ぎて、あっという間に「日本フルートコンベンション2013in高松」の季節がやって来ます。お申し込みをお忘れなく。体調を整えて、楽しい夏休みを迎える準備をしましょう♪

＃星っさんコーナー（その87）

「第8回神戸国際フルートコンクールを聴いて」

顧問 星島明郎

4月1日（月）神戸文化ホールで開催中の「第8回神戸国際フルートコンクール」の第2次審査を聴いてきました。このコンクールは1985年から始まり、以後4年に一度、神戸で開催されています。1989年の第2回コンクールの優勝者はエマニュエル・パユ（現在ベルリン・フィルの首席）とペトリ・アランコ（現在フィンランド放送交響楽団の首席）でした。これでお分かりのように大変レベルの高いコンクールで、ミュンヘン国際音楽コンクール、ランパルコンクール、ジュネーブ国際音楽コンクールと並んで、世界4大コンクールの一つに数えられています。審査員も世界トップレベルのフルーティスト・指導者達で日本からは金昌国（審査委員長）、神田寛明、酒井秀明、そしてペトリ・アランコ（フィンランド）、マチュー・デュフォー（フランス）、ティモシー・ハッチンス（カナダ）、リー・ソヨン（韓国）、リュウ・フェイチン（台湾）、ヘンリック・ヴィーゼ（ドイツ・・・岡山フルートの会特別会員、小池郁江さんのミュンヘン留学中の先生です）、ジャック・ズーン（オランダ）、ウィリアム・ベネット（イギリス・・・予定されていたヴォルフガング・シュルツさんの急逝により急遽変更になりました）の11名でした。コンクールは3月28日の第1次審査から始まり、第2次・第3次審査を経て4月6日の本選まで10日間にわたって行われます。今回は、世界34ヶ国から229名の応募があり、その中からテープ審査によって選ばれた日本人14名、韓国人10名、フランス人5名、ロシア人4名、アメリカ人3名など21ヶ国59名の各国代表が世界一を目指すことになったのです。私が特に第2次審査を選んで聴きに行った理由は、私の大好きな、そして曲の解釈にも大変興味を持っているエマヌエル・バッハ（大バッハの次男）の作品とされるハ長調、ト短調、変ホ長調のソナタと、ヒンデミット、マルチヌス、プロコフィエフなどの近代ソナタが課題曲だったことです。実際にバッハでは、さまざまな解釈、自由で個性的なインプロビゼーション、斬新なアーティキュレーションなどを聴くことが出来、その是非は別として大いに楽しませて頂きました。2曲目の近代曲では、それぞれが得意の曲を選んでの競い合いで、テクニックも実に素晴らしく名演ぞろいでした。いずれの奏者も厳しい第1次審査を通過（59名から24名に）してきた自信からか、皆さん晴れやかな笑顔で登場されます。ほぼ全員が、曲間に喉を潤すための飲み水の入ったコップあるいはボトルを持って登場し、傍らに用意された卓上や足元に置いて演奏を始めます。中には掃除棒や、曲によって音色を変えるために楽器を2本（木管と金管）持って現れる人もいます。そして観客は、素晴らしい演奏をして退場していくプレーヤーに対して惜しめない拍手を送るのです。（これは何年か前に経験したミュンヘン国際コンクールでも同様でした）

この日の審査の終り近くで、休憩中の審査委員長・金昌国先生に「お疲れでしょう」と声をかけると、「皆な上手いでしょう。2次でこの人達の半分を落とさなければならぬのですよ（24人を12人に）。どうしようかと思えますよ」と、このコンクールのレベルの高さを話されていました。第1回大会から30年にわたってこのコンクールを企画運営され、審査委員長も務められ、世界4大コンクールの一つと言われるまでに高

められた金昌国先生に心からご苦労様と申し上げたい。(2013.4.2)

{後日・コンクールの結果発表} 4月6日の本選終了後、次のように結果発表されました。

- 1位 ジャコー・セバスチャン (スイス)
- 1位 カルデリーニ・マチルド (フランス)
- 3位 竹山 愛 (日本)
- 3位 フェレイラ・アドリアナ (ポルトガル)
- 5位 アチャイ・ティメア (ハンガリー)
- 6位 濱崎麻里子 (日本)

応募者も入賞者も女性が多いのは日本だけではないですね。入賞者では1位になったスイスのジャコー・セバスチャンだけが男性で、後は全て女性でした。木管と金管と2本持って出たのは彼でした。バッハのハ長調のソナタは木管で柔らかく、ヒンデミットのソナタはゴールドのフルートで力強く吹き分けていました。バッハはバロックらしくほとんどノンビブラートでタンギングを多用し、そしてヒンデミットでのフォルテとピアノ、特にピアノシモの美しさは流石でした。特別賞としてオーディエンス賞も合わせ獲得した彼は、ジュネーブ音楽院出身の26歳で、現在既に香港フィルハーモニー管弦楽団の副首席とアンサンブル・コントレションの首席奏者を務めているそうです。もう1人の1位はフランス人のカルデリーニ・マチルドです。彼女はパリ国立音楽院出身の24歳、すでにリヨン国立管弦楽団アカデミーの首席奏者を務めており、一昨年の第2回マクサンス・ラリー国際フルートコンクールで特別賞を受賞しています。小柄(そのように見えた)ながら上から下まで大変よく鳴る笛で、バッハのト短調のソナタでは即興的な装飾が実に快く、多用されるAregllo楽章のタンギングが強弱の変化と共に大変美しかった。続いて演奏されたプロコフィエフのソナタ。当におとぎの国にさ迷い込んだように、うっとり聞き惚れてしまいました。技術的にも特筆すべきは、やたらに出てくる3連符の速いトリプルタンギングが、高音域から最低音域に至るまで切れ味鋭く実にクリアーで正確なこと。とても痛快でした。そして日本人として最高位3位入賞の竹山 愛さんの演奏も、バッハのハ長調とプロコフィエフのソナタでしたが、素晴らしい音質とテクニックそして表情の豊かさは、とてもコンクールであることも忘れさせた堂々たる演奏で、この日最も大きな拍手を貰っていました。全て大満足の日でした。

#### #演奏会情報

♪Mokuan Live

日時:5月16日(木)19:00~

会場:森の食卓 brassiere mokuan(岡山市中区湊1344-56 電話 086-276-4088)

入場料:2,000円(お食事+1ドリンク+デザート付) ※要予約

出演:moc(F1/清水昌美, Gt/高尾和樹)

お問合せ:090-8717-7787(清水さん)

#### ♪5月コンサート

日時:5月30日(木)開演 18:00(開場 17:45)

会場:岡山大学教育学部北音楽棟3Fホール

曲目:フルート8重奏によるモテット BWV229/J.S. バッハ 他

入場料:無料

出演:諸田大輔, 三尾奈緒子(賛助), 大賀美紀, 岡本亜沙美, 中村穂奈美, 布川葵, 高木啓輔, 柴田真帆 他

お問合せ:090-9677-6832(諸田さん)

♪I am a SOLIST ～オーディションで選出された人達と岡フィルの共演～

日時:7月15日(月・祝)開演15:00(開場14:00)

会場:岡山シンフォニーホール 大ホール

曲目:コンチェルティーノ Op.107/シヤミナード 他

入場料:S席2,000円, A席1,000円

お問合せ:090-3746 7953(塚さん)

7月14日と日の2日間のコンサートです。15日に会員の塚由美さんが出演します。全席指定ですので、チケットご希望の方は塚さんに連絡してください。

#### #演奏会情報&チラシの会報への同封について【重要】

演奏会情報は5月24日(金)までに西原明弘さん(会報係チーフ)に連絡してください。また、演奏会のチラシを会報封筒に同封・郵送(原則として奇数月のみ)を希望される場合は、A4版三つ折りにした状態で長谷川楽器店に持参してください。その際、必ず事前に会報係チーフに連絡し、会報発送数を確認してください。

お問い合わせ:badflute@gmail.com(西原さん)

\*総会(5/12)で会報係チーフが交代する予定です。このことにつきましては、次号の会報でお知らせします。

#### #チラシをホームページに掲載する方法について【重要】

演奏会のチラシを岡山フルートの会のホームページに掲載してほしい会員は、チラシを折らないでホームページ係チーフ(柴田さん)に郵送してください。なお、チラシをPDF化できる会員につきましては、以下のアドレスにファイルを添付してお送りください。

ホームページ掲載用チラシ送付先:柴田 聡さん

〒703-8282 岡山市中区平井1126-52 okayama-flute@mail.goo.ne.jp

#### 【会報の封筒詰めのお知らせ】

7月号の会報の封筒詰めを、7月2日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。

会員の皆さまには、ぜひ、封筒詰めのお手伝いをお願いします。